

# こども未来課通信 No. 26

2023. 10. 31 発行:長崎県こども未来課



## ～壱岐にて！～

第51回長崎県 国公立幼稚園・こども園協会研究大会 文部科学省 幼児教育の理解・発展推進事業 長崎県委託 幼児教育研究協議会が壱岐市立那賀幼稚園で開催されました。95名の参加者があり、活発な意見交換など深まりのある研究大会となりました。

### <公開保育>

雨の影響で、外での遊びができませんでした。その分、室内遊びが充実していました。お店屋さんやハロウィンの「ごっこ遊び」、ダンスや変面ショーなどの「ステージ遊び」があり、いきいきと活動していました。5歳児クラスの帰りの会では、ニュースコーナーがあり、自分の言葉を伝え合う姿が見られ、小学校との接続を意識した活動が仕組まれていました。



### <研究発表>

午後からは、研究発表、協議が行われました。那賀幼稚園の研究は理論と実践が合致しており、参加者にとって大変参考になる発表でした。グループ協議では、幼、小の先生方で「幼小接続の在り方」について意見や情報交換を行い、お互いの教育・保育を理解するなど、議論が深まった協議会になりました。



## ～幼児教育アドバイザー訪問～

幼児教育センターのアドバイザー依頼も軌道に乗ってきた？感じがします。今後も保育についてのアドバイスや園内研修など保育の質の更なる向上に向けてアドバイザーを御活用ください。まずは、ホームページから依頼書をダウンロードしてお申し込みください。



### <最近の依頼内容>

- ✓ 保育を見て、環境構成や先生の手立てについてのアドバイス
- ✓ 不適切保育についての研修
- ✓ 指導案の書き方
- ✓ 次の保育へ生かす、子供の学びをつなげる記録の書き方
- ✓ 小学校へつなぐ指導要録の書き方
- ✓ 気になる子供への対応・体制

検索

長崎県こども未来課 幼児教育センター



(幼児教育センター直通

095-895-2686)

## ～幼保小連携実態調査結果～

6月に調査をお願いした「幼保小連携実態調査（令和4年度実績）」の結果をお伝えします。長崎県がめざしております「年に2回以上の幼保小交流」に関しては37.7%の実施率でした。しかし、昨年度はまだ、コロナ禍の影響があったことを考えますと、今後、交流回数も増え、幼保小の接続が進んでいくものと期待しております。

【回答した全ての対象施設のうち小学校との交流の実施状況割合】				
施設 回数	幼稚園	幼保連携型 認定こども園	保育所	総計
実施なし	22.5%	26.0%	38.8%	33.4%
年1回	25.8%	33.7%	28.9%	29.3%
年2回以上	52.8%	40.4%	32.6%	<b>37.7%</b>
年1回以上	78.7%	74.0%	61.5%	67.0%

内容については、直接の交流だけでなく、ビデオや手紙などの間接的な交流もありました。また、交流学年についても5歳児と5年生、1年生、2年生と内容によってさまざまな形態があり、地域の実態に合わせて工夫をされていることも分かりました。

### ○交流例

- ・小学1年生と一緒にお店屋さんごっこをした。店づくりの段階から交流した。
- ・小学1年生と一緒に英語の授業とタブレットの授業に参加した。
- ・小学2年生がつくったおもちゃで遊んだり、ゲームを体験したりした。
- ・小学5年生と一緒に学校探検や〇×クイズをして楽しんだ。

長崎県としましても、次のステップとしまして、交流回数から「子ども同士の交流へ向けた職員同士の協議」の実施を促していきたいと思っております。

また、調査方法についても、Forms（フォームズ）を使ってWeb アンケート方式へ変更したいと考えております。

（文責：こども未来課 高田 敦）

### 幼児教育センターより 「自由保育」と「設定保育」

この二つの言葉は便宜上よく使われていますが、大事なのは「子どもが主体的に遊んでいるか」「遊びを通して学んでいるか」ということです。

子どもが自由に好きなことをして遊んでいるように見えて、あまり発展性のない玩具で遊んでいるだけという場合もあります。一方で、みんなで同じことをしているように見えるけれど、子どもの選択肢が多様にあり、自分がしたいことを実現できている場合もあります。

1日の生活の中で、子どもが自由にしたいことをとことんできる時間と、みんなと一緒に何かをする時間の割合やその内容を今一度見つめ直し、「子どもの主体性は育っているか。」職員みんなで考えてみてはどうでしょうか。 （副センター長 室野）